

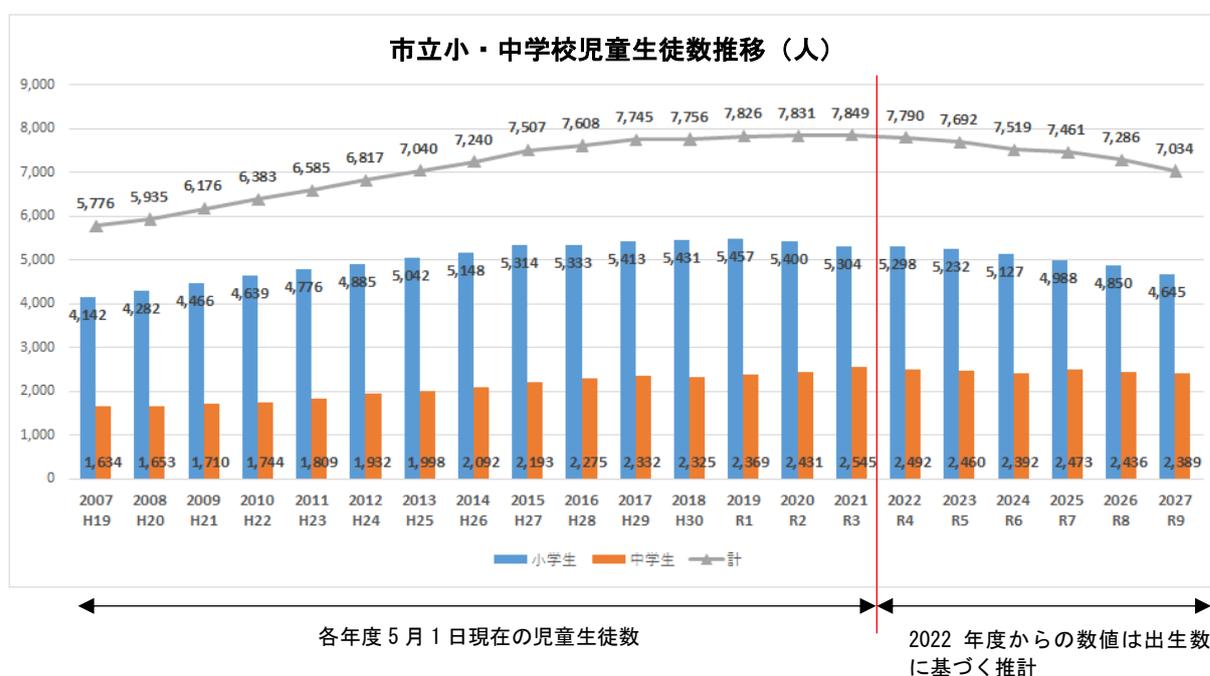
## 市立小・中学校をめぐる状況

### 1 児童生徒数の推移

木津川市立小・中学校の児童生徒数は、本市が誕生した2007年(平成19年)以降増加を続け、2021年度(令和3年度)は7,849人となっています。

今後は、城山台地区で当面の増加傾向があるものの、市内全体の傾向としては減少が見込まれ、2027年度(令和9年度)には7,030人程度になると予想されています。

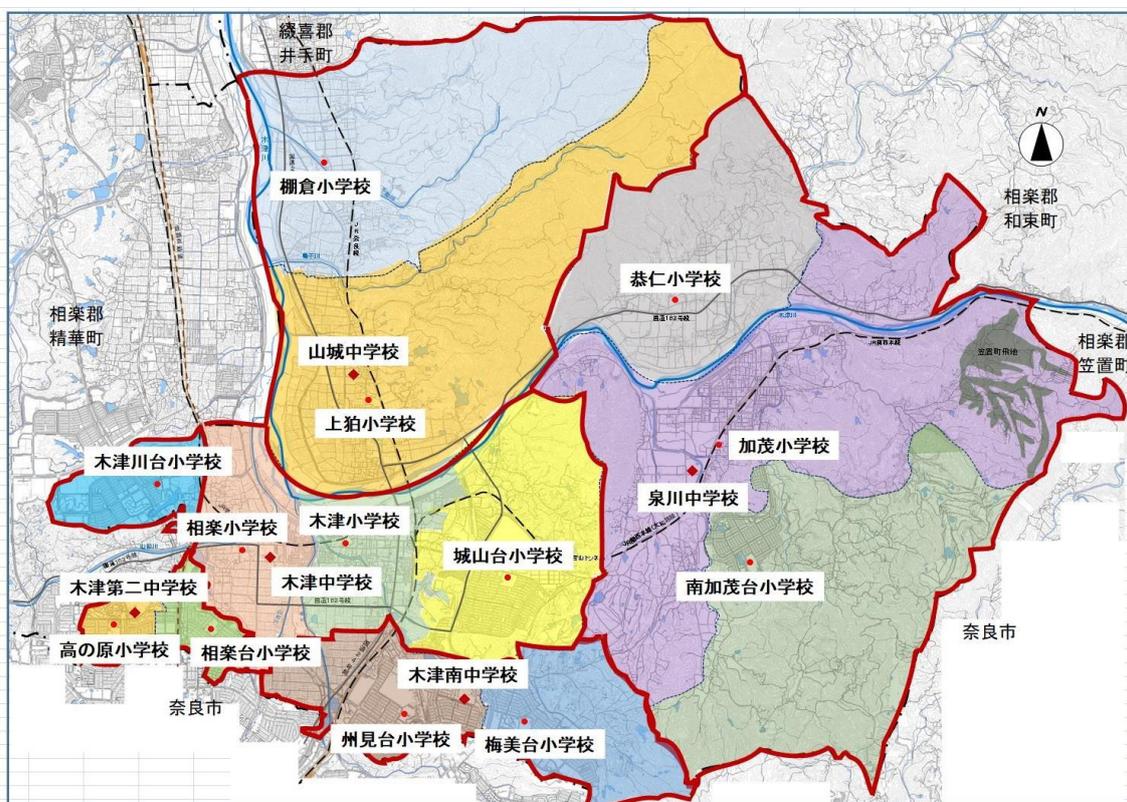
更に中長期的な推計をした場合、現在規模が大きい学校の地域においても、今後、著しい減少傾向が見込まれ、市整体的に見ても減少傾向となっています。



### 市立 13 小学校・5 中学校の名称及び位置

中学校の名称	位置	小学校の名称	位置
木津中学校	相楽高下 4 番地 8	木津小学校	木津町内垣外 95 番地
		相楽小学校	相楽清水 1 番地
		城山台小学校※	城山台六丁目 1 番地 1
木津第二中学校	兜台 6 丁目 1 番地	高の原小学校	兜台 4 丁目 4 番地 1
		相楽台小学校	相楽台 5 丁目 17 番地 1
		木津川台小学校	木津川台 2 丁目 4 番地
木津南中学校	州見台四丁目 26 番地	梅美台小学校	梅美台四丁目 26 番地
		州見台小学校	州見台一丁目 32 番地
泉川中学校	加茂町大野烏田 75 番地	加茂小学校	加茂町里西上田 11 番地 1
		恭仁小学校	加茂町例幣中切 31、32 番地
		南加茂台小学校	南加茂台 12 丁目 11 番地
山城中学校	山城町椿井柳田 33 番地	上狛小学校	山城町上狛学校 1 番地
		棚倉小学校	山城町綺田局塚 14 番地

※2023 年度以降、城山台 9～13 丁目は第 1 学年から順次、木津南中学校区となります。



市立小・中学校の児童生徒数推計（人）

小学校	2020年度	2025年度	2030年度	2035年度	2040年度
木津	516	375	348	354	353
相楽	437	374	323	319	315
高の原	292	273	274	298	283
相楽台	231	256	242	236	233
木津川台	371	168	181	295	363
梅美台	968	671	439	349	443
州見台	666	474	359	379	465
城山台	973	1,838	1,419	748	467
加茂	272	217	198	242	257
恭仁	48	35	33	43	38
南加茂台	157	104	133	157	152
上狛	154	100	115	136	130
棚倉	286	219	147	168	199
計	5,371	5,104	4,211	3,724	3,698

中学校	2020年度	2025年度	2030年度	2035年度	2040年度
木津 ※	583	786	882	654	485
木津第二	529	385	301	309	341
木津南 ※	815	961	930	579	445
泉川	283	227	155	189	195
山城	248	200	147	135	138
計	2,458	2,559	2,415	1,866	1,604

これまでの人口動向等の推移や傾向などからコーホート要因法を用いて推計しています。児童生徒が成長し20～30歳代になった時、市内に在住しているかどうかの移動率が不確定のため、実際の児童生徒数とは異なります。

※参照 25 ページ【参考】児童生徒数の推計等について

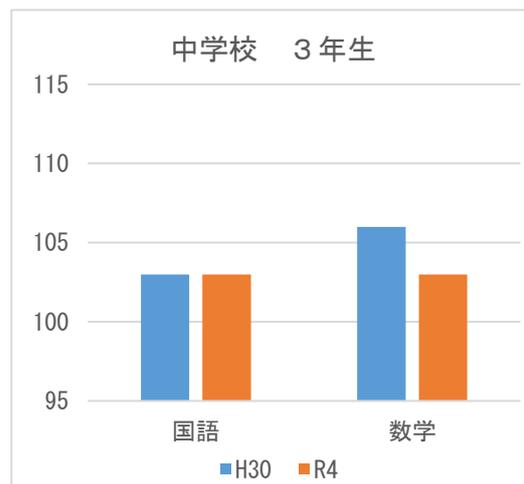
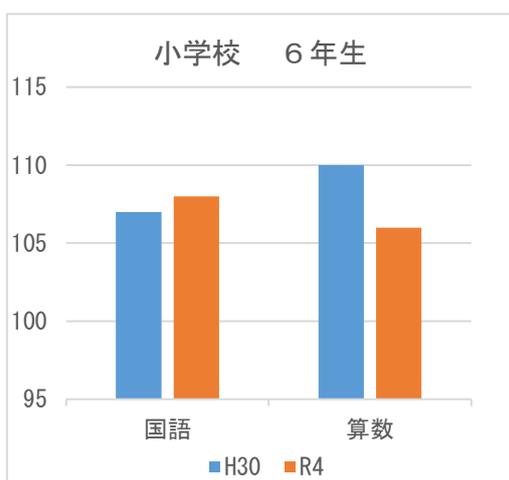
※2025年度以降の数値は城山台9～13丁目を木津南中学校区としています。

## 2 学習（国語・算数・数学）について

平成 30（2018）年度及び令和 4（2022）年度の全国学力・学習状況調査（対象：小学 6 年生、中学 3 年生）の結果を比較することで、以下本市の学力等の状況を示します。

### （1）学力の定着状況について

本市の小中学生の正答率は、国語、算数・数学のすべての問題において、全国平均正答率（100）を上回っています。算数・数学における全国との差の減少は、学力の落ち込みを示すものではなく、年度ごとに変動する数値の想定内にあります。この 5 年間の取組により、学校間の格差も広がることなく、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を身につけることで、学力の維持につながっています。

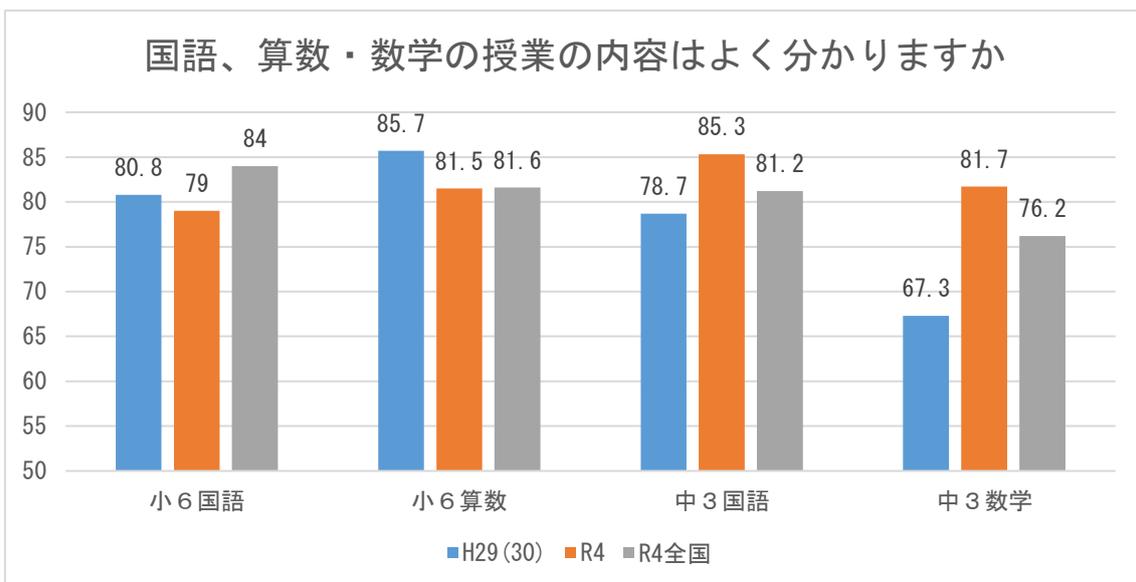
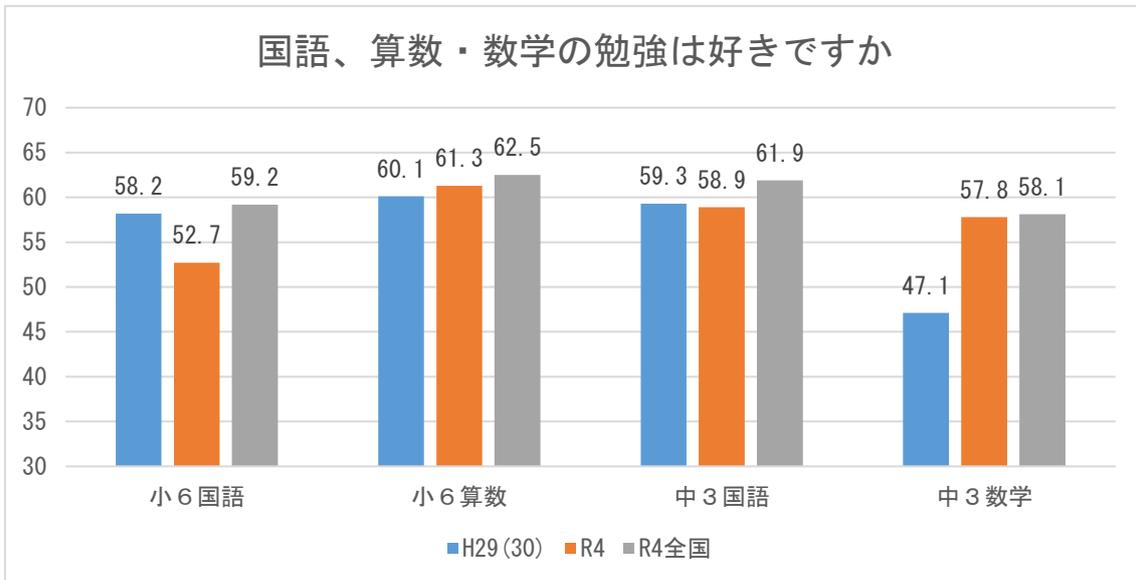


### （2）学習に対する関心・理解について

5 年前と比較して国語に対する関心については、小学校においてはやや低く、中学校においてはあまり変化がない状況です。算数・数学については、小中学校ともに向上し、特に中学校においては 10% を超え高まっています。しかし、全国との比較においては、近づいてはいるがまだ低い状況にあります。

理解については、小学校において国語・算数ともにやや低くなり、中学校においてはともに向上し、全国と比較しても高い状況にあります。

小学校の国語に対する関心・理解が、全国と比較しても下降していることから、今後も主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に一層取り組んでいく必要があります。

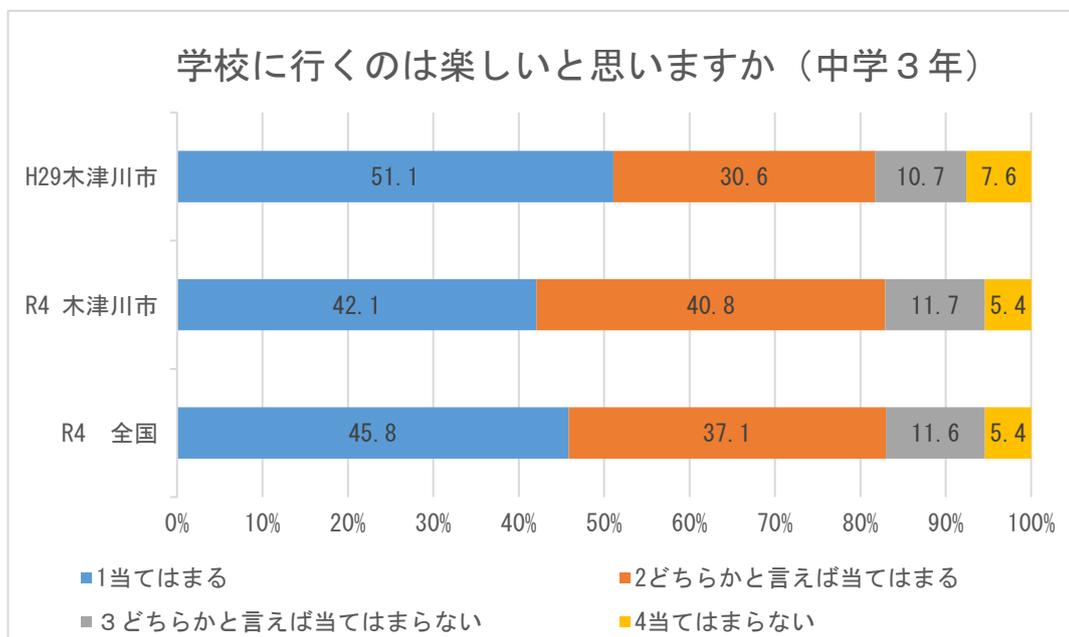
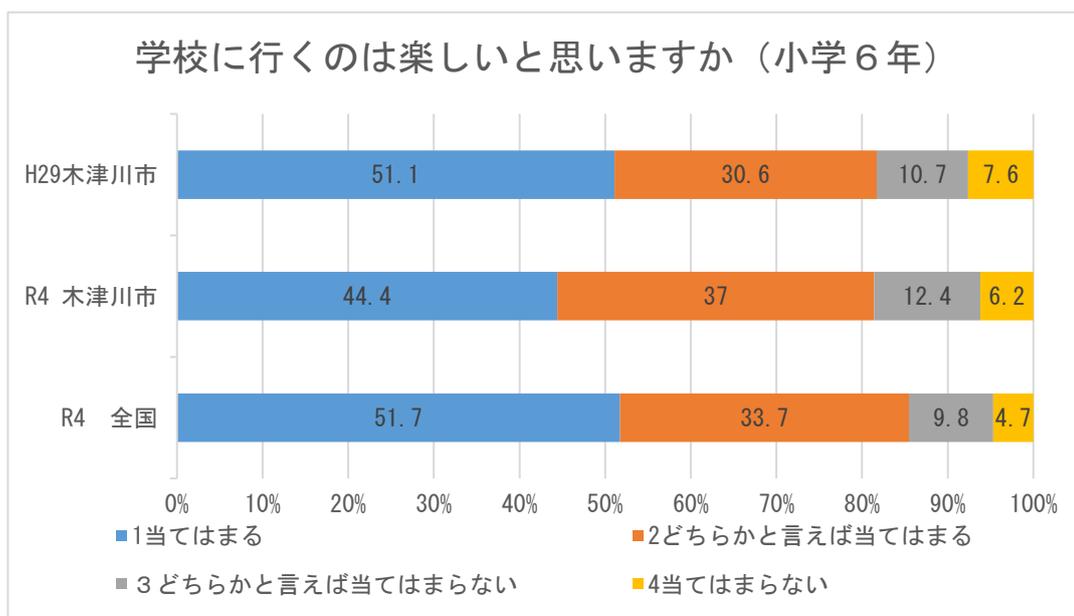


- \* 上記グラフ内の国語の数値について、平成 30 年度に国語に関する調査が実施されなかったため、平成 29 年度の国語の数値と比較しています。
- \* 上記グラフの数値は、質問に対する肯定的な回答（当てはまる・どちらかと言えば当てはまる）を集計したものです。

### 3 生活について

#### (1) 学校に行くことについて

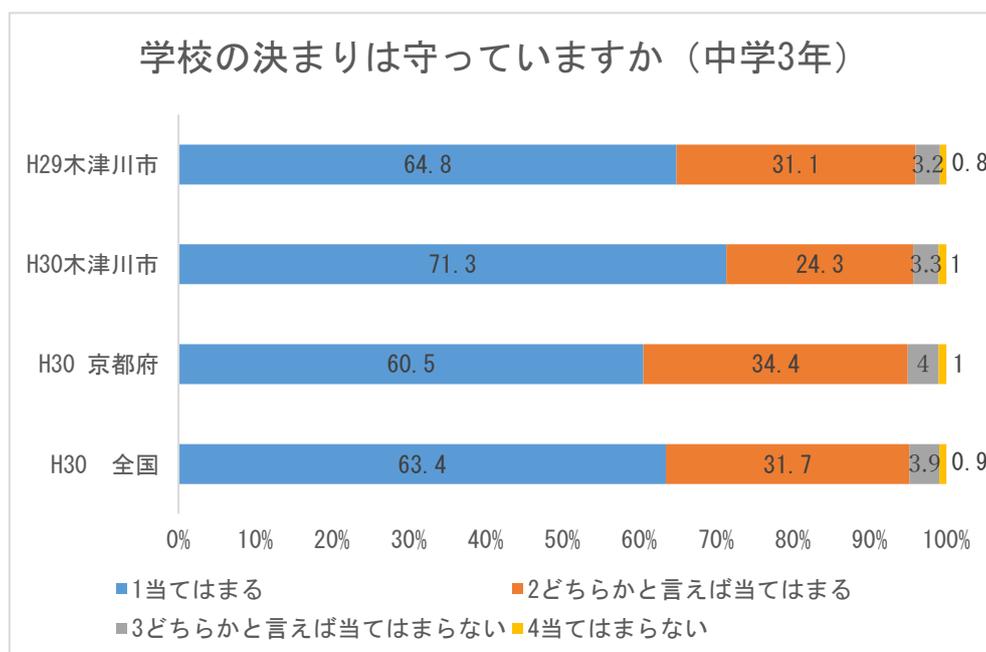
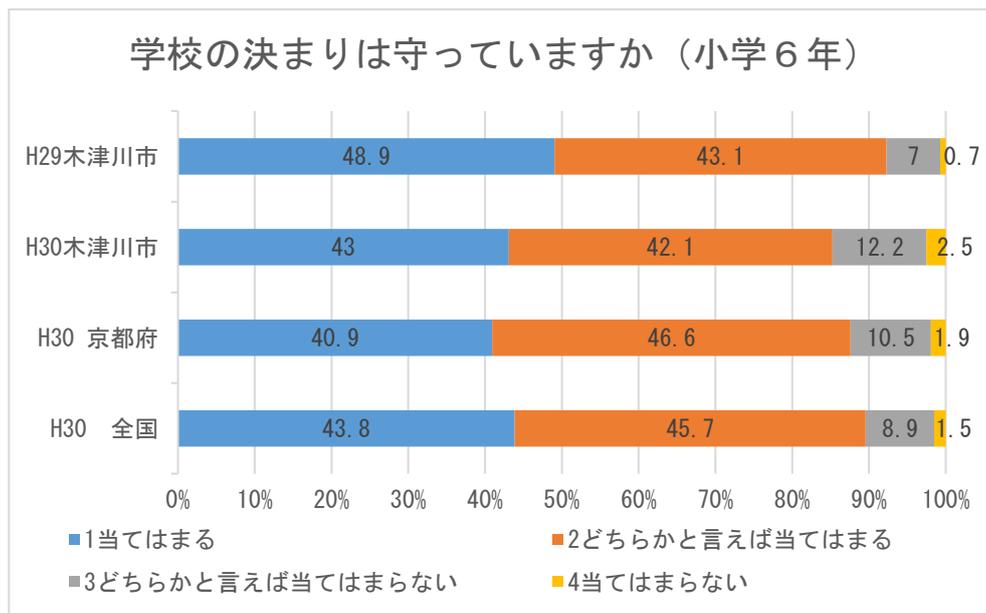
学校に行くことについて「楽しい」と感じている児童生徒が、5年前は全国平均に比べ高い割合を示していましたが、楽しくないと答えている生徒が増えています。



## (2) 規範意識について

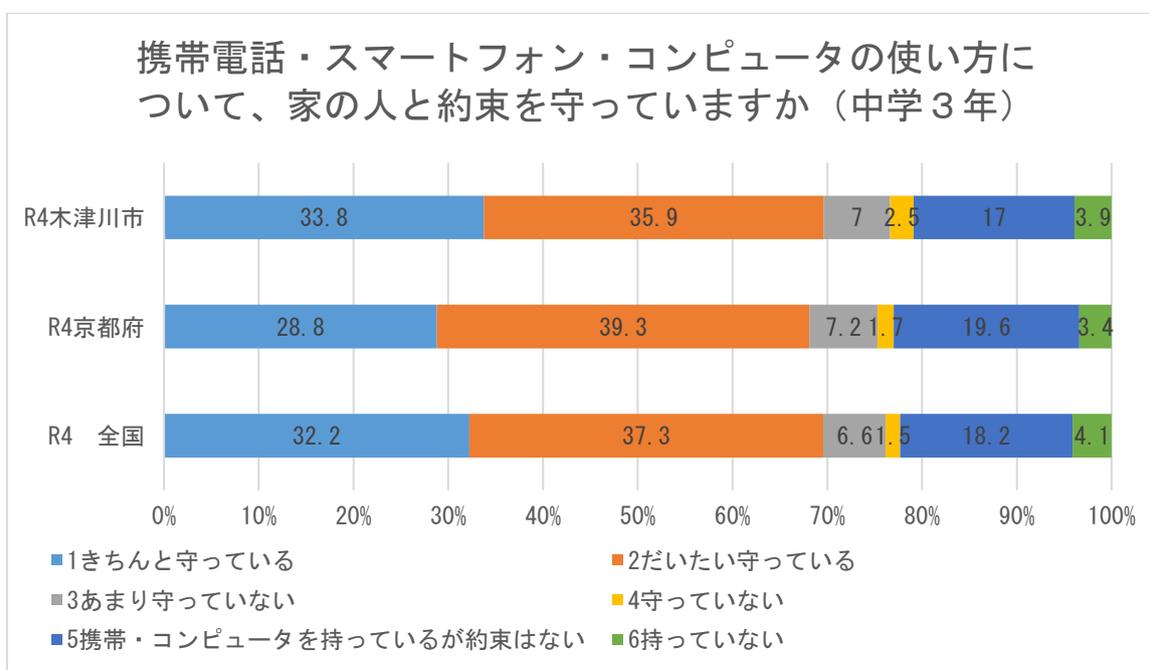
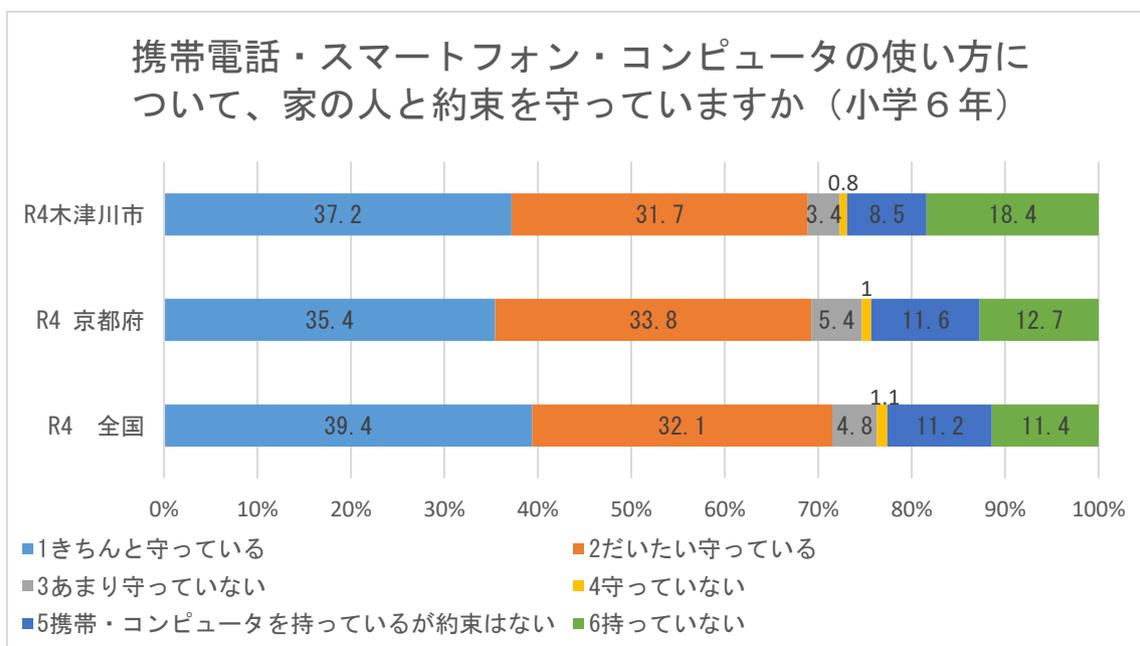
学校のきまりについて「守っている」と感じている児童生徒が、全国平均に比べ高い割合を示しています。

年々携帯電話等の保持数が増え、全国的に SNS でのトラブルやいじめ等が増えているようです。そのため、令和4年は、学校のきまりについての質問から携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方についての質問へと変わりました。



### (3) SNSについて

携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について約束を守っている児童生徒が全国平均に比べ低い割合を示しています。



#### (4) いじめについて

「いじめは、どんな理由があっても行けないことである」と感じている児童生徒の割合が高いと思われます。しかし、令和4年の全国、平成30年木津川市の状況と比べて、意識がやや減少していることが気になります。

